

小樽商科大学



帯広畜産大学



北見工業大学

お問い合わせ先

北海道国立大学機構 総務課

〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11 TEL 0155-65-4314 E-mail somu02@office.nuc-hokkaido.ac.jp

<https://www.nuc-hokkaido.ac.jp/>



ヒトづくり・モノづくり基金
ご協力をお願い



国立大学法人
北海道国立大学機構
Hokkaido Higher Education and Research System

まだ この世にはない 学びを。

小樽商科大学・帯広畜産大学・北見工業大学。
3つの全く異なるキャラクターの大学が統合され、
2022年4月に北海道国立大学機構が誕生。

食やエネルギー、観光といった
北海道の可能性を広く活かす知が融合したことで、
これまでにない「実学の知の拠点」が動き始めた。

いままでにない視点で、ステークホルダーと連携し
イノベーションを加速させ、社会の発展に貢献する。
それがきっと、この大地から
世界に新たな幸せをもたらすと信じて。

前人未踏の課題に挑む私たちの道のりは、
まだまだ始まったばかり。
「まだこの世にはない学び」を実現するために、
どうか、あなたの力を貸してください。

日本の未来を、北海道の知でひらく。

国立大学法人
北海道国立大学機構
理事長

長谷山 彰

商・農・工の融合が、可能性を最大化する。

北海道は食料自給率約200%を誇り、風力・太陽光などの新エネルギーポテンシャルや都道府県魅力度ランキングにおいても日本一。豊かな北の大地で、大学が地域と連携することで輝かしい未来がひらけます。

一方で、様々な課題も。例えば、食料自給率約1,300%で日本の食糧基地といわれる十勝平野でも、2050年には農業経営者の数が半分になるという試算があります。

少数の経営者がAIを活用して生産性を高め、物流までマネジメントする。これからの農畜産業には、そういったスマート農業の発想が求められます。北海道という遠隔地から大都市圏に生産物を輸送するコスト計算や、

いつどこに卸すと一番利益が出るかという予測。これらはAIをはじめとするデジタル技術が不可欠ですし、時代によって変化する市場でビジネスチャンスを見つけるためには、経営者としてのマネジメント能力が問われます。

三大学が商・農・工の融合による人材育成、研究イノベーションの創出に力を入れ、産業界と連携することで、北海道の発展に貢献することができるのです。

想定外を突破できるのは、人である。

私たちは気候変動や災害、パンデミックなど、想定外が頻発する時代に生きています。過去の



三大学の新生が交流するルーキーズキャンプ

データから学ぶAIは、データのない真の想定外に直面すると回答できません。そこに人間の柔軟な知性と感性の出番があります。事態の本質を見抜き、多面的に物事を見て創造的な思考で課題を解決できる人材の育成が必要です。

「三大学がこんなに離れていて、何ができるんですか」と言われたこともあります。しかしながら気候風土の異なる広域に位置し、学問分野も異なる三大学が連携するからこそ、異文化を体験しながら、多様な学びで多様な人材を育てることができます。

北海道から日本を支える。

豊富な農林水産資源やエネルギーで日本を支える北海道。北の大地で特色ある教育研究を展開する



三大学が連携する北海道国立大学機構だからこそ、商・農・工の学問分野の融合を武器に、まだこの世にはない新しい学びに挑戦できま

す。地域を支え、社会の発展に貢献し、日本の未来をリードできる人材育成と研究イノベーションを創出するのが私たちの使命です。本機構への寄附は単なる寄附ではなく、「ヒトづくり・モノづくり基金」の事業を通じた北海道そして日本の未来への投資だとお考え下さい。みなさまの温かいご支援をお願い申し上げます。

三大学総括理事メッセージ



小樽商科大学は、グローバル人材の育成と地域課題解決型教育、ビジネス教育を推進し、文理融合の知を備えた人材の育成に取り組みます。

小樽商科大学長 穴沢 真



帯広畜産大学は、企業連携を推進し、「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じて、地域および国際社会の課題解決に取り組みます。

帯広畜産大学長 長澤 秀行



北見工業大学は、自然と調和し、グリーン社会の実現に資するテクノロジーの創造と人材育成に取り組みます。

北見工業大学長 榮坂 俊雄



AI/IoTスマート農畜産業プロジェクト

日々進化するスマート農畜産業のなかでも、まだ自動化が難しい分野があります。たとえば牧草などの自給飼料生産は、収穫の際ハーベスターにトラックを並走させるための熟練の技術が必要です。そこで、誰もが使えるスマートフォンを用いたサポートシステムの研究開発を北見工業大学が進め、帯広畜産大学やJAの協力のもと実証実験を実施。高齢化による人手不足という課題の解決に挑んでいます。



防災プロジェクト

災害に備え、いち早く復興の手助けとなる基盤を作りたい。そのために、地球環境のビッグデータを扱うプラットフォーム・DIASを活用。災害時に調査した情報を集積し、調査状況を共有するシステムを実装しています。また被災状況を収集するデータベースを構築することで、農地や観光地の被害額を算出し、スムーズな支援を可能にするための取り組みを進めています。

北海道から世界の未来に挑む。

商・農・工の連携は、人の営みと自然、そして科学の連携。
今までにないアプローチで課題に立ち向かえば、今までにない可能性が見えてくる。
北海道の、私たちにしかできない挑戦で、世界の未来をひらいていきます。

環境データ駆動型観光Zekkeiプロジェクト

蟹気楼や雲海、ジュエリーアイスなど、北海道には偶発的な景観が多く存在します。これらの絶景をより正確に予測し、新たな地域の観光資源にしたい。Zekkeiプロジェクトでは、DIASを情報基盤とした観光アプリの開発を行うと同時に、北海道だけでなく日本そして世界に应用可能なデータ駆動型観光の実現を目指しています。プロジェクト内にある4つのチームそれぞれに小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学の三大学が参加し、文理融合の研究チーム体制で課題に取り組んでいます。



蟹気楼

大気中の気温差が発生に影響する蟹気楼。道東・オホーツク地域の鉄塔気温計を用いた発生予測の結果を、DIASアプリ「絶景予測-Zekkei Explorer」で公開しています。



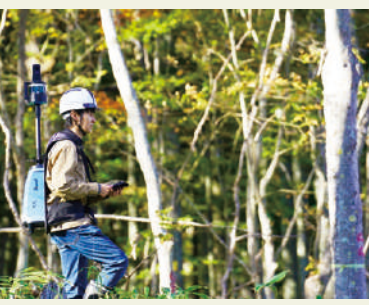
雲海

発生確率が低い屈斜路湖では、精度の高い予測で雲海の観光資源化を目指しています。また室蘭市、日立ソリューションズ東日本との産学官連携で、共同研究を開始しました。



道内広葉樹の資源管理

針葉樹は上空からの撮影で木材としての価値を推定できますが、樹木の特長上、広葉樹はそれが叶いません。そのため北海道産広葉樹の多くは、価値を精査されないまま、安価なチップ材として出荷されています。木材の品質において重要な胸高直径や枝下通直性、樹種といった情報を林道からLiDAR(3Dスキャナー)で計測。道産広葉樹の品質データを川下企業に提供するシステムの確立を目指し、林業の高付加価値・高効率化に貢献します。



知を融合し、 社会を 発展させる。

小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学。
商・農・工、3つの知を融合させた人材育成と
イノベーションの創出で産学官金連携を強化。
多様なステークホルダーのニーズに応えます。



小樽商科大学



帯広畜産大学



北見工業大学

北海道の発展を担う人材を
三大学で育成。

ICE

教育イノベーションセンター

Innovation Center for Education

教育イノベーションセンターは、三大学連携による文理融合型の学修を通じ、多様な課題に対応できる人材を育成する各種教育プログラムや、オンライン教材を開発・運用。学部・大学院教育では、三大学の科目を横断的に学べるプログラムやコンテンツ等の開発。リカレント教育では、時間・場所の制約を受けないプログラムの開発等に挑戦しています。



産学官金の連携で
北海道の未来を共創。

ACE

オープンイノベーションセンター

Agriculture Commerce Engineering

オープンイノベーションセンターは、共同研究や社会実装など、産学官金連携を必要とする案件を主に担当しています。三大学の有する研究成果や人的資源等を活用し、技術開発や社会実装、ビジネス展開まで一貫した研究開発プロジェクトを推進。産学官金連携でイノベーションを創出し、北海道の課題解決と産業・社会の発展に貢献しています。



三大学とステークホルダーをつなぐ、
ワンストップ窓口。

IIC

産学官金連携統合情報センター

Integrated Information Center
for Industry-Academia-Government-Finance Collaboration

産学官金連携統合情報センターは、三大学の教育研究の情報を集約し、体系化する。教育研究の方向性を明確にし、外部資金の獲得、成果の情報発信を先導する。ステークホルダーからの要望を教育研究に反映する。これらのミッションを掲げ、ステークホルダーのニーズと三大学のシーズをマッチさせるワンストップ窓口として活動しています。

STAKEHOLDERS

民間企業 道内高等教育機関 金融機関
経済界 地方自治体

IIC

教育研究成果の情報発信
プロモーション・
マーケティング

三大学の交流・情報集約・流通
ステークホルダーの要望収集
資金獲得戦略、知財戦略の策定

ICE

文理融合教育
リカレント・リスクリング教育
地域課題解決型教育
遠隔教育手法開発

ACE

連携融合シーズ生成
知財管理・技術開発
共同プロジェクト推進
社会実装

ご寄附 いただいた みなさまへ

北海道国立大学機構

ヒトづくり・モノづくり基金に
ご寄附いただいたみなさまに、
各種特典や褒章制度のご案内です。



詳しくはホームページをご覧ください

01 税制上の優遇措置

対 象 | ご寄附いただいた全ての方

ヒトづくり・モノづくり基金へのご寄附に対しましては、所得税法による税制上の優遇措置が受けられます。個人からのご寄附、法人からのご寄附どちらにおいても優遇措置の対象となります。

所得控除

寄附金控除額=寄附金額※-2,000円
その年に支出した寄附金の額から2,000円を引いた額を、
所得税の課税所得から控除することができます。

※寄附金額は、総所得金額の40%が上限です。
詳細につきましては、国税庁のホームページをご覧ください。

住民税控除

北海道国立大学機構を「寄附金税額控除対象法人等」として
指定している地方自治体にお住まいの方は、個人住民税
(道府県民税・市町村民税)の控除を受けることができます。

※適用の可否等、詳細につきましてはお住まいの自治体における
住民税担当課へお問い合わせ願います。

法人の優遇措置

北海道国立大学機構基金は、法人税法上の全額損金算入
が認められる寄附金(法人税法第37条第3項第2号)として
財務大臣から指定されています。

02 返 礼 品

対 象 | 5万円以上ご寄附いただいた方

ヒトづくり・モノづくり基金に一定額以上ご寄附をいただいた方には、
感謝の気持ちとして返礼品をお贈りしています。詳細についてはweb
ページをご確認ください。

※返礼品提供者より直接返礼品をお送りする場合がございます。
発送等に必要範囲で個人情報を各事業者へ提供しますので、予めご了承ください。

03 基金銘板へのご芳名掲載

対 象 | 個人10万円以上 法人50万円以上ご寄附いただいた方

ヒトづくり・モノづくり基金へご寄附をいただいた方のご芳名を掲載
し、末永く謝意の表明をするため、北海道国立大学機構本部に銘板を
設置しています。ヒトづくり・モノづくり基金への寄附累計金額が、個
人は10万円(20口)以上の方、企業・団体等は50万円(10口)以上で、
公表することをご了承いただいた方を掲載いたします。
今後、この基準に該当することとなった個人または企業・団体等を、
毎年追加掲載していきます。

04 紺 綬 褒 章

対 象 | 個人で500万円以上
企業・団体で1,000万円以上ご寄附いただいた方

北海道国立大学機構は内閣府賞勲局より認定を受けた紺綬褒章の公
益団体のひとつです。ヒトづくり・モノづくり基金では、要件を満たし
た方にご意向を確認の上、紺綬褒章の推薦をいたします。

返礼品の一例

日本酒
「碧雲」「萌宥」

帯広畜産大学の構内にある酒蔵「碧雲
蔵(へきうんぐら)」で、学生が醸造のノウ
ハウを学びながら製造に携わった「学生
の酒造りプロジェクト」により誕生した日
本酒です。



純米吟醸「碧雲(へきうん)」(左)
しっかり磨いた道産酒造好適米を、碧雲蔵の地下を流れる
札内川伏流水を使い、低温でじっくりと発酵させました。
穏やかな香りと優しい味のバランスが良く、後味も滑
らかで心地よい余韻が楽しめます。

特別純米「萌宥(ほうゆう)」(右)
桃を感じさせるような控えめではありつつも華やかな香
りを感じます。味のバランスや口に含んだ感触も良く、吞
んだ後の余韻の膨らみや豊かさがあり、呑み心地も軽や
かです。